

# JSAF 外洋三崎

## 2015 年度「外洋三崎ミーティング」議事録

●日時:2015 年 11 月 17 日(火)19:00~21:00

●場所:貸会議室プラザ 八重洲北口 2 号室

●出席者(敬称略):

【常任委員会メンバー】

新田会長、初鹿野、近藤、森、大宮、木原、虫賀、中里、安藤(9 名)

【会員の参加者】

石田(ジタン)、岡安(グランブルー)、小林(ランカ)、高木(フルードリス VII)

=====  
【ミーティング実施の経緯】

本年 6 月から新田会長の下、外洋三崎は新体制となった。2016 年以降の活動方針も着々と固まってきた。そのなかで、会員の皆さんが、どのようなことを考え、また、外洋三崎に対して何を望んでいるのかといったことを、広く聞きたいという意向から、総会などの公式な場ではなく、フリートーク形式で自由に発言いただける場を設けようと、今回初めて「外洋三崎ミーティング」実施するに至った。

=====  
【当日出たさまざまな意見から】

※今回は議事録という形ではなく、当日出た意見やテーマをまとめる形での記載とした。

●レース、イベント等の告知

- ・ムーンライトレースや今回の外洋三崎ミーティングなど、ウェブサイトやフェイスブック等での告知がメインで、会員の大部分が「行事の存在自体を知らない」という状況にある。
- ・外洋三崎のホームページに情報が掲示されていても、会員の側から積極的に閲覧するという状況が少ない。
- ・ホームページが更新されていくと更新情報が徐々に下がっていくので大切な情報などを目立つように表示するようになり、ホームページへと呼び込む仕掛けを作るといった改善も必要かもしれない。
- ・少なくとも会員にはメーリングリストを使うなどして呼びかけたり、水域のマリーナ・ヨットクラブ等に告知を掲示するなどしてはどうか。
- ・告知を各艇のオーナーではなく、「連絡係」「マネージャー」を決めてもらい、外洋三崎側からメール等でアプローチしてはどうだろうか。SYF の場合には、参加艇に連絡係のメールアドレスを提出してもらっている。
- ・レース等の参加率が高いメンバーは、「外洋三崎が自分の所属するクラブだと思ってもらえるように」積極的に周囲を誘ってほしい。

●レースの際のエントリー

- ・レースにエントリーする際に、会員証を都度集めてコピーし、提出しなければいけないのは非常に面倒。
- ・運営サイドとしては、(特に年度切り替え直後の初島卯月など)会費の入金状況の確認が非常に困難で煩雑。
- ・手続きの簡素化、オンラインエントリーシステムなどの将来的な構築、関東外洋 4 団体で共通のフォーマット・エントリーシステムの統一などが、将来的には求められる。

●関東外洋 4 団体での共通レーティングの作成

- ・すべてのレースを IRC・ORC で行うことが、すべての会員が負担になっていないわけではない。レーティング証書を持たない艇が、オープンクラスのないレースには、参加出来ない要因の一つとなっている現状がある。
- ・各フリートが使っている独自のレーティングシステムを、少なくとも全ての外洋 4 団体が使えるようにシステム化していき、CR レーティングのような費用が安く、簡易なレーティングシステムを作っていきたい。
- ・三浦伊東レースでは、毎回、幹事クラブが違うレーティングを使用している。
- ・「非レーサー」の思いも、外洋三崎という団体として取り込んでいく必要がある。  
→会員としてのメリット(安全講習会の実施、保険加入以外の何かを新たに考えていく必要がある)

●外洋三崎主催レース「外洋三崎ショートハンドチャレンジカップ(仮称)」の開催

- ・クルージング艇をレースに呼び込むには、どこの艇もクルー不足が問題となっている。  
→ならば、ショートハンドで出られるレースを作ってはどうか。初島ダブルハンドの盛況例。
- ・来年(2016年)に、「外洋三崎ショートハンドチャレンジカップ(仮称)」を主催し、非レーサーも含めた多数の艇が参加できるレースイベントを新設。シングルハンド部門、ダブルハンド部門、トリプルハンド部門を設置。コースは小網代沖～南西沖ブイ往復で、初島ダブルハンドより出やすく(距離も短く)、時期は初島ダブルハンドの前に開催する。
- ・外洋湘南、外洋三浦との日程調整。
- ・宮川フィッシャリーナでは、レースをする艇が 4 艇になったという情報がある。

●国際 VHF の搭載の推奨

- ・外洋三崎としては、国際 VHF の搭載をすべての登録艇に推奨していったらどうか。  
→参加要件のあるレース艇のみならず、クルージング艇にこそ安全のためにも搭載をすすめたい。
- ・海岸局「みさきよつと」があり、神子元島くらいまで電波の送受信ができるようだ。
- ・VHF を積んでいるものの、実際に機器の使い方が分かっていないケースが意外と多い。こういった機器の使い方、あるいは通信のやり方(マナー・ルール)についても、講習会などを実施してもいいのではないか。

●若いセーラー、新規セーラーの取り込みに関して

- ・横須賀市や三浦市と協力して、地元の中高生を長期的に体験できるプログラムを実施したらどうか。
- ・受け入れ側と乗りたい側のニーズの接点を作るべきでは。  
→大学卒業後の学生、20 代の若者などが「気軽に乗れる場」を提供する必要性。例えば「クルー登録制度」を作り、乗りたいときに、いつでも乗れる船がある環境を作るなど。受け入れ側としては、しっかり艇を用意しておく必要あり。横浜ヨット協会の例(<http://www.yyc.or.jp/4.html>)...定着率が高い。
- ・関連各クラブとも連携し、長期的な視野に立って、新規セーラーを取り込んでいかなければならない。
- ・ディングーとクルーザーは「別物」だと考えなければいけないのではないか。J/24、メルジェスなどのクラスは、ディングー学連卒業生の取り込みについて、近年一定の成果を残しているが、これらのクラスは、クルーザーとは別ものという認識を持たねばならないかもしれない。ただ、少ないながらも、外洋レースに興味を持っている若い層はいるので、取りこぼしのないように乗船機会を設けていければ。

=====

【新田会長から】

今回初めて、フリートーク形式による「外洋三崎ミーティング」を実施しましたが、通常の常任委員会等では出てこない、生の声や新しいアイデアを数多く聞くことができ、結果として成功だったと思います。今後も恒例化し、毎年1回は継続的にこのような広く会員を対象としたミーティングを実施するとともに、外洋三崎の活動に、会員各位の声を反映させるようにしていければと考えています。

=====

**【最後に】**

今回のミーティングを経て、外洋三崎としては、2016年度以降、さっそく次の点について実行していくことが、参加者によって確認された。

- (1)「外洋三崎ショートハンドチャレンジカップ(仮称)」の2016年からの実施
- (2)クルー登録制度をはじめとした、新規層の獲得への取り組み

(議事録作成／外洋三崎総務 安藤健)